

省エネ化 SiC普及へ

科技振機構事業に採択

京都の産学連携で研究開発した次世代半導体材料、シリコンカーバイド(SiC)、炭化ケイ素の本格普及を目指す取り組みが7日、科技振機構(JST)の公募事業「研究成果展開事業(スーパークラスタープログラム)」の中核を担う「コアクラスター」に採択された。

京の産官学 開発連携

京都高度技術研究所(京都市下京区)、京都市、京都府が提案した「クリーンなSiCは、今年3月に終了した文部科学省の補助事業「京都環境ナノクラスター」で研究開発が加速。京システムの構築」。電力損失の少ないSiCのパワーデバイス(電力変換素子)を、家電製品や電車、自動車、送電システムに活用し、エネルギー利用の効率化を図る。研究開発期間は最長5年。JSTが負担する事業経費は年4億円程度。製品

家電や車など応用

化に必要な回路・システム開発などを行う。

コアクラスターは京都のほか、窒化ガリウムなどの次世代半導体材料を研究する「愛知地域」が選ばれた。JSTは今後、コアクラスターと連携して技術やビジネスモデルを開発する「サテライト」を1〜3地域ずつ公募する。

(中村幸恵)

京都のコアクラスターへの参画機関、企業は次の通り。

京都大、京都工芸繊維大、大阪大、神戸大、奈良先端科学技術大学院大、滋賀県立大、同志社大、立命館大、京都市産業技術研究所、京都府中小企業技術センター、アイケイエス、オムロン、京セラ、サムコ、島津製作所、住友電気工業、ニチコン、日本電産、堀場製作所、村田製作所、ローム